

事業名称	飛騨みやがわ考古民俗館保存活用事業		
実行委員会	石棒クラブ		
中核館	飛騨みやがわ考古民俗館		
	住所	〒509-4533 岐阜県飛騨市宮川町塩屋104	
	TEL		FAX
	ホームページ	飛騨みやがわ考古民俗館 <a href="http://hida-bunka.jp/facilities/miyagawaminzokukan/">http://hida-bunka.jp/facilities/miyagawaminzokukan/</a> 石棒クラブ <a href="https://www.sekiboclub.com/">https://www.sekiboclub.com/</a>	
構成団体	飛騨市教育委員会、FabCafe Fida		
事業開始時点の課題分析	飛騨みやがわ考古民俗館は、民俗資料約3万点、考古資料約5万点を収蔵する。民俗資料の一部は国指定、考古資料の一部は県重要文化財に指定される。これらは、将来に伝えるべき文化資産として大切に保管されてきた。しかし、合併後の中心市街地から34km離れ、年間30日程度の開館という中で、へき地の集客力がない資料館という課題に直面していた。		
事業目的	オンラインで活用できるデータを誰でも利用できる形でオープンにする。また、データ取得の作業を一般参加で行う。誰でもデータ取得も公開も行う在り方の意義を共有し、体制を整備する。これにより、飛騨市の認知度向上に資する。		
事業概要	収蔵資料にいつでも誰でもアクセスできることを目指す。まず、特徴的な資料である縄文時代の石棒を撮影し、インスタグラムにアップしていく。また、収蔵資料の3Dデータ化も目指す。これらの作業を全国の興味ある人を募集して実施する。		
実施項目 ・ 実施体系	1. 収蔵資料のデータをオープンにする (1) 収蔵資料の公開体制と手段の検討 ①オンラインによる会議 ②地域資源として博物館資料を3Dデータ化する意義を発信するトークイベント ③石棒撮影会 ④バックヤードを踏まえた講演会 ⑤石棒3D合宿 ⑥講演のYouTube配信、画像のインスタグラム		
実施後の成果・効果等	一般参加で取得した画像および3Dデータの公開を開始した。 3Dデータで、最も多いデータは、18,700回(2022年1月末)の閲覧があった。 発信を強化できた成果として、直近15年で最高の入館者数となった。  博物館が満足に開館できない世の中となり、また、予算と掛けられる人員も厳しい状況が続く。飛騨みやがわ考古民俗館には、オンラインを用いていつでもだれでもアクセスできる状態を創り始めることができただけでなく、それを一般参加で構築した点が特徴である。資料に触れて、博物館の本質的な活動に寄与することにより、愛着を持つ人が増えていく効果があったと考えられる。		

## 【事業実績】

石棒クラブによる飛騨みやがわ考古民俗館の保存活用事業

一般参加で博物館資料のデータ取得と公開を行い、さらなるファン層の獲得を行う。

年間 30 日開館の博物館であるが、皆でいつでも誰でもデータにアクセスできる状態を創出した。最も多いデータは 18,700 回の閲覧、直近 15 年で最高の入館者数となった。

### 1. 収蔵資料のデータをオープンにする

#### (1) 収蔵資料の公開体制と手段の検討

##### ・石棒撮影会

期日：2021年7月3日 参加者：5名

目的：博物館資料として縄文時代の石棒を撮影し、Instagramでオープンにする。

参加者の反応：実物の資料に触れることができるのが良かったとの反応があった。また、どのように撮影すれば最も資料の見せたいところを捉えることができるかを参加者同士で語り、交流する姿が見られた。



撮影の様子



資料の見え方を参加者で検討する様子

##### ・地域資源として博物館資料を3Dデータ化する意義を発信するトークイベント

「3Dデータ化が未来を創る？～地域のちょっとしたものが地域の宝に～」

期日：2021年7月22日 参加者：61名

目的：博物館資料の3Dデータを地域資源として活用できるか検討する。

すでに地域資源の3Dデータをオープンにしている方からご発言いただく。

参加者の反応：「データのオープン化は地域創生につながる」「地域外の人に地域の魅力を発見してもらおう」などの声があった。



イベントチラシ



配信の様子

・バックヤードを踏まえた講演会

「土偶女子からみた“やさしい”縄文の世界」

期日：11月7日 参加者：33名

目的：縄文時代の暮らしを、事前に講師に飛騨みやがわ考古民俗館を見学してもらい、その資料を用いて、最新の研究も踏まえながら分かりやすくお話いただく。

参加者の反応：満足度 81%

「関心を持てた」「名残のものがたくさんある」といった声があり、身近に感じてもらうことができた。また、「楽しい話」「聞きやすい」という講師の人柄から縄文に対する垣根が下がった効果も認められた。飛騨市図書館に特設縄文コーナーを設けたところ、多くが貸出となった。



講演の様子



講演の様子

・石棒3D合宿

期日：11月27・28日 参加者：7名

目的：閉館時でも収蔵資料の価値を共有できる場の創出。文化財情報の取得と公開を一般参加で行うことにより、仲間づくりにつなげる。

日中は博物館で撮影、夜間はモノづくりカフェの FabCafe Fida でデータ化の作業、3Dプリンターでのプリントアウト等を行った。

参加者の反応：満足度が非常に高く、全員より次回も参加すると表明があった。「自分が担当した土器に愛着がわいた」との意見があった。一つの資料の100枚程度の撮影を行うため、資料と向き合う時間が長く、愛着が生じやすいと考えられた。



データ化の様子



撮影の様子